

1. 調査報告概要表

作成日 2009年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1571500543
法人名	株式会社 パートナー
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地 (電話番号)	新潟県 糸魚川市 桜木 45番地1 (電 話) 025 - 566 - 5755
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建て, 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000円		その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円	
	夕食	300円	おやつ	50円	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		2	名	要介護2	2	名
要介護3		4	名	要介護4	1	名
要介護5		0	名	要支援2	0	名
年齢	平均	82 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真部外科医院・室川医院・高橋歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

糸魚川市の中心地に位置しながらも、大通りから少し入った閑静な住宅街の中にあるデイサービスセンターを併設した1ユニットのグループホームです。利用者同士、職員間、利用者と職員の仲がよく、新しく入ってくる人も自然に迎え入れる暖かな雰囲気は、運営者でもある管理者が職員の働きを承認し、そのもとで働く職員が利用者の気持ちを理解し、大切にしているからだと思われます。開設3年目にあたる今回の評価では、各項目の取組みもしっかりと行われており、完成度の高い事業所運営が行われています。今回の課題も全員で話し合いクリアすることで、より一層の向上を期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題で課題となった点は、職員間で共有し、自分達なりの理解をした上で、必要な改善策が講じられています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	今回の評価にあたっては、評価の意義を理解した上で、職員一人ひとりが自己評価を行い、会議で話し合い、まとめ上げられています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	事業所からの報告や質問に対する回答に加え、地域との交流に関する協力依頼や参加者からの意見が事業所の運営に反映されています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目	年に2回盆と正月に家族会を行い、その際に家族との外食旅行や大掃除の簡単な手伝いをしてもらうことで、普段面会が少ない家族にも来所してもらい、意見を聞くよう工夫されています。また、運営推進会議は全家族に声を掛け、多くの人に参加してもらうよう努められています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	区長さんが協力的で、新年会・クリーン活動・敬老会・観桜会などの行事に声をかけてもらい、参加されています。また、併設のデイサービスセンターで行っているクッキング教室・交通安全指導・お茶会などには、ホームの利用者や地域の人に参加し、交流が図られています。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者がこれまでの介護経験に疑問を感じ、民間・小規模でなければできない良い介護をしたいという思いから『「地域の中で」「ゆったりと」「自分らしく」生活ができるように支援します。』という事業所独自の理念が作り上げられています。また、夕方の穏やかな海という意味の「ゆうなぎ」という名前には、人生の最期をゆっくりと穏やかに過ごしてもらいたいという気持ちが込められています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の掲示の他、会議において理念の中にある言葉の1つひとつを検討し、意思統一と実践に向けた取り組みが行われています。		
2-2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対する契約時の説明とともに、地域に対する広報誌や交流を通して、グループホームに対する理解とホームが大切にしている考えの浸透に取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長さんが協力的で、新年会・クリーン活動・敬老会・観桜会などの行事に声をかけてもらい、参加されています。また、併設のデイサービスセンターで行っているクッキング教室・交通安全指導・お茶会などには、ホームの利用者や地域の人々が参加し、交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題で課題となった点は、職員間で共有し、自分達なりの理解をした上で、必要な改善策が講じられています。今回の評価にあたっては、評価の意義を理解した上で、職員一人ひとりが自己評価を行い、会議で話し合い、まとめ上げられています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告や質問に対する回答に加え、地域との交流に関する協力依頼や参加者からの意見が事業所の運営に反映されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場主催の地域グループホーム会議に参加する中で関係を強化し、利用者と担当者のところを訪問したり、回覧の依頼をするなどの関係が作られています。また、管理者が地域包括センターの職員と以前から知り合いであったこともあり、相互に行き来し、相談や意見交換が行われています。		
6-2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事による事例検討や実際の対応策などを勉強会を開き、職員に周知徹底が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	仕事の後など、家族に頻繁に面会に来てもらうように働きかけ、管理者をはじめ職員が近況の報告や利用者に関する情報を家族から聞き出すことや、折に触れて電話連絡を行い、密に連絡が取られています。また、広報誌に個人通信欄を設け、担当職員が記入することや、利用者から年賀状や暑中見舞いを出すなどの工夫が行われています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回盆と正月に家族会を行い、その際に家族との外食旅行や大掃除の簡単な手伝いをしてもらうことで、普段面会が少ない家族にも来所してもらい、意見を聞くよう工夫されています。また、運営推進会議は全家族に声を掛け、多くの人に参加してもらえるよう努められています。		
8-2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のチーム会議、2ヶ月に1回のリーダー会議を行い、意見や提案を出す機会が設けられています。また、管理者も現場経験あり、今も頻繁に現場に出るようにすることで、日常的に職員とお互いに提案や意見を出し合う関係が作られています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が発生した場合は、利用者の気持ちを優先し、状況の報じて挨拶や説明が行われています。また、日常的な情報共有によるチームケアにより、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	開設時に職員で話し合い、事業所独自のマニュアルが一通り完備されています。また、実態に即したマニュアルとなるよう、定期的な見直しが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は希望者に参加してもらえよう、案内が休憩室に掲示されています。また、学習委員会を設け、職員が必要とする研修のアンケートを取り、年間計画を作成し、事業所内研修が行われています。事業所内研修は併設デイサービスの看護師の協力も得て行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームの管理者と情報交換をする機会が設けられています。また、地域のグループホームやケアハウスと相互訪問も行われています。		
11-2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員のいいところを見つけ褒めることを心掛け、職員の様子や顔つきに注意を払い、声かけや1対1で話をする機会が設けられています。また、休憩室の確保や昼の1時間休憩に加えて、午後3時以降に10分休憩を設けるなど、休憩の取り方にも配慮が行われています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学では利用者と昼食を共にするなど、ホームの雰囲気に馴染む取り組みが行われています。また、家庭に訪問をする際は時間帯を変えて何度か訪問することで、本人の本当の姿を見た上で、納得のいくまで面談を行い、利用開始するよう努められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と寄り添いながら生活を共にし、得意分野が発揮できるよう支援が行われています。個々の得意分野で、料理の先生・裁縫の先生・畑の先生と、利用者を「先生」と呼ぶところからも人生の先輩として利用者を敬い学ぶ姿勢が伺いしれます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを密にすることで、利用者の希望や訴えを家族と共有し、家族と職員がその思いに対してできることを分担して、利用者を共に支える関係づくりが行われています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を経過記録に細かく記載し、ケアプランへの反映が行われていますが、記録として残された情報を集約し蓄積する点に課題が残ります。	○	現状の取組みを一步進めて、定期的に情報を集約し蓄積する仕組みづくりにより一層の活用を期待します。
14-2	34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握同様、利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を経過記録に細かく記載し、ケアプランへの反映が行われていますが、記録として残された情報を集約し蓄積する点に課題が残ります。	○	思いや意向の把握同様、現状の取組みを一步進めて、定期的に情報を集約し蓄積する仕組みづくりにより一層の活用を期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・関係者を交えた話し合い、職員を交えた検討会議を踏まえ、それぞれの意見を反映したケアプランが作成されています。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申送りにより利用者の状態を全職員が共有し、月に1度のチーム会議によるモニタリングを踏まえ、3ヶ月に1度の定期的な見直しが行われています。加えて、状態変化による随時の見直しも行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、買い物や図書館への外出の対応や、家族の要望や都合に応じて、食事や宿泊などの対応が行われています。また、デイサービスとの交流を通して、グループホームの中だけに留まらない支援が行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の受診に職員が同行(年に3回は家族が同行)し、かかりつけ医との情報交換や関係づくりが行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為の必要がない範囲内で対応をするという事業所の方針が家族・医師・職員間で共有されています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心に配慮した対応が周知徹底されています。また、個人情報の取扱いは明文化された方針と目的に基づき、事業所にも掲示されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるものの、利用者との会話を多く持ち、一人ひとりのペースや意向にそった支援が行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑での収穫や差入れされた旬の食材を利用者と職員で相談し、メニューに取り入れられています。また、準備から食事、片付けを利用者の希望や状態に応じて職員と共に、大家族のような雰囲気の中で食事が行われています。		
22-2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表による排泄パターンの把握や仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われており、自ら言えない利用者に対しては臭いでさりげなく確認し対応するなどの工夫がされています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と入浴時間に関して、体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、利用者同士での入浴や併設デイサービスの大きなお風呂での入浴など、入浴を楽しめるよう支援が行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事や畑仕事などの軽作業は利用者の得意分野で先生として活躍してもらう他、誕生日・流しそうめん・運動会などさまざまな楽しみごと、気晴らしの支援が行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園や畑への日常的な散歩や、さまざまな場所へのドライブに加えて、利用者一人ひとりのこだわりや意向に応じて、遠方まで買い物に行くなどの支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の防止同様に、新聞記事による事例検討や実際の対応策などを勉強会を開き、職員に周知徹底が図られています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	行動パターンの把握と見守り、定期的な所在確認により、日中は鍵をかけないケアが実践されています。また、近隣住民に予め予想できることは伝え、協力体制が確立しています。		
26-2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書、事故報告書を活用し、それぞれの事例についての再発防止策の検討が行われています。		
26-3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習は職員のみならず家族にも参加を呼びかけ、参加可能な家族はいっしょに受講されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、併設デイサービスと合同の避難訓練が近隣住民も参加して行われています。加えて、ホームが2階であるため、階段からの避難訓練が事業所独自で行われています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量・水分量をチェックし、申送りにて職員間で情報共有が行われています。また栄養管理に関しては、定期的に栄養士・医師への相談が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓のある高い天井とオープンキッチンにより、自然光を取り入れた開放感のある空間になっています。また、畳コーナーや通路にソファを置くことで、一人ひとりが落ち着く場所が見つけられるよう配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースを中心に左右対称に居室が配置されています。そのため、左右の廊下の壁紙の色を変えることや、居室の入口にある小窓と居室のカーテンの色を同じくし、各居室ごとに色を変えることで、自分の部屋であることを分かりやすくするなどの配慮がされています。		